

小学校第6学年 国語科 学習指導案

期 日 平成25年10月23日(水)第5校時
場 所 山鹿市立山鹿小学校 6年2組教室
指導者 教諭 山本 直子

1 単元名

ものの見方を広げ、感じたことを表現しよう

「『鳥獣戯画』を読む」「この絵、わたしはこう見る」(光村図書)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の内容(B書くこと)ウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」(C読むこと)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」を受けて設定してある。

本教材「『鳥獣戯画』を読む」は、12世紀に生み出された「鳥獣人物戯画」の一場面について、高畑勲氏がアニメーション映画の監督の視点で書いている説明的文章である。記述の特徴は、筆者の絵の正確な観察をもとにして、絵の解説(事実)と評価(感想・意見)が繰り返し述べられていることである。また、体言止めや語りかけるような言い回し等、表現技法や文章の構成が工夫されており読者を引き込むような書きぶりである。

そこで、絵と文章を照らし合わせながら読むことで、筆者の着目点やそれに対する評価、表現の仕方に気付かせていく。また、「この絵、わたしはこう見る」を組み合わせ、作品の紹介文を書く活動を並行して行うことで、筆者の着目点や評価、優れた表現を模範にし、事実と感想・意見を区別して読んだり書いたりする力を高めていく。

(2) 系統観

第5学年(11月)	第6学年(5月)	第6学年(10月) 本時	第6学年(1月)
説明の仕方について考えよう 天気を予想する グラフや表を引用して書こう B書くこと (1)ウ C読むこと (1)ウ	文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう 感情・生き物はつながりの中に C読むこと (1)ウ	ものの見方を広げ、感じたことを表現しよう 『鳥獣戯画』を読む この絵、わたしはこう見る B書くこと (1)ウ C読むこと (1)ウ	言葉について考えよう 言葉は動く 自分を見つめ直して B書くこと (1)ウ C読むこと (1)ウ

(3) 児童観

○本単元のねらいに関する実態(9月末での調査結果32名)は以下の通りである。

○下表の調査項目「1」「2」「3」は、5月に実践した「生き物はつながりの中に」の単元テストを基に分析したものである。また、「4」「5」は、図画工作の鑑賞において、「作品のよさを紹介する」という観点で調査を行った結果である。

調査項目			達成・概ね達成
1	読	筆者の感想・意見を押さえることができる。	81.3%
2	む	事実と筆者の感想・意見を分けてとらえることができる	53.1%
3		筆者の書き方の工夫に気づくことができる。	68.8%
4	書	ある事実を根拠とし、それに対する感想・意見を書くことができる。	62.5%
5	く	表現の仕方を工夫して、自分の考えを書くことができる。	43.8%

○「1」「2」の結果から、筆者の感想・意見は読み取ることはできるが、その根拠となる事実を押さえることができる児童は半数程度である。「4」の結果からも、感想・意見を書くことはできても、根拠を明らかにしながら書く力はまだ身に付いていないことが分かる。

○「3」「5」の結果から、筆者の書き方の工夫についてある程度気付くことができているが、それを自分の表現に生かすまでには至っていないことが分かる。

(4) 指導観

- 単元を貫く言語活動として「美術評論家になって、自分が選んだ作品のよさを紹介する」ことを設定する。自分の好きな浮世絵や絵巻物の紹介文を書いて、八千代座で行われる学習発表会に保護者・地域の方に見てもらおう場を設定することにより、児童が目的意識や相手意識を持って主体的に学習に取り組めるようにする。
- 単元の導入では、「鳥獣人物戯画」の一部を紹介するモデル文を提示し、よさを紹介する絵の見方（絵のある部分→事実を取り出す→評価）に気付かせる。このことにより、「筆者の高畑勲さんが、どんな着目点で事実を取り上げ、どう評価しているのか。」という読みの視点を与え、本教材を読ませたい。
- 第2次の「読む」と第3次の「書く」ことを結び付けるため、第2次の授業においても、その時間に学んだ筆者の着目点やその評価の仕方、表現の仕方等を参考にしながら、自分が選んだ作品のよさを紹介する文章を書く活動を取り入れる。
- 筆者の評価（感想・意見）が分かる言葉にサイドラインを引き、その評価が絵のどの部分に着目し、その部分の説明（事実）をどのように書き表しているかを結び付けながら読み進めることで、事実と感想・意見を関連付けて考える力を身に付けさせる。
- 学習前に書いた本文の挿絵の紹介文と筆者の紹介文を比較することにより、絵から読み取ったことを詳しく描写して、感想・意見と関連付けて書いていくことで、読者に自分の見方や感じ方がより正確に伝わることに気付かせる。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
【視点1】 児童の思考力・判断力・表現力等を育成するために、単元を貫く言語活動を設定し、児童同士の学び合いを基盤とした豊かななかかわり合いのある双方向型の授業づくりを目指す。	【視点2】 学習評価と指導の改善を図るために、身に付けた力を複合的に活用できる課題解決型の学習を取り入れ、思考力等を評価するための評価指標を工夫し、思考の過程を評価できる授業づくりを目指す。	【視点3】 情報活用能力を育成するために、ICT機器の効果的な活用を図るとともに、目的に応じて必要な情報を取捨選択するなどの主体的な情報活用を促す授業づくりを目指す。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見との関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすることができる。 ○事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。
-------	--

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
「美術評論家になって、自分が選んだ作品のよさを紹介する」言語活動を通した指導			
①日本の絵画や絵巻物に興味を持ち、課題解決のために絵や文章を読もうとしている。 ②作品のよさを伝えようとしている。	①目的に応じて事実と感想・意見を区別して書いている。 ②目的に応じて書き出しや文末表現等を工夫して書いている。	①事実と感想・意見などとの関係を押さえている。 ②筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているかをとらえている。	①文末表現や助詞の使い方などに着目して読み、語句と語句との関係を考えて、自分の表現に用いている。

4 指導・評価の計画（10 時間取扱い 本時 5 / 10）

次	時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価基準（評価方法） B 基準
1	1 ・ 2	○「鳥獣戯画」の 1 枚目を鑑賞して、感想を交流する。 ○教師が作成した「鳥獣戯画」の紹介文を事実と感想・意見に分類する。 ○「美術評論家になって自分が選んだ作品のよさを家族や地域の人に伝えるために紹介文を書く」という学習のゴールを知り、学習計画を立てる。 ○「『鳥獣戯画』を読む」の段落構成を考え、概要をとらえる。	・教師が作成した絵の紹介文を読み、事実（絵の解説）と感想・意見（筆者の評価）から成り立っていることを押さえる。 ・複数の日本絵画や絵巻物の写真を提示し、紹介文を書きたい作品を選ばせる。また、自分が書いた紹介文は八千代座公演で展示し、公開することを告げ、相手意識と目的意識を持たせる。 【視点 1】指導事項を意識化させるとともに、単元を貫く言語活動を理解させる。 ・説明文の学び方を確認するとともに、既習事項を生かし教材文の段落構成を考える。	関心・意欲・態度①（発言） 日本の絵画や絵巻物に興味をもち、事実と感想・意見を考えながら、教師が示した紹介文を読もうとしている。
2	3 ・ 4 ・ 5 （本時）	○絵（第 3 時は 1 枚目の絵、第 4 時は 2 枚目の絵）と文章を照らし合わせながら読み、筆者の着目点とその評価について考えを出し合う。 ○筆者の説明や評価と自分の見方を比べ、共通点や相違点を見付ける。 ○自分が選んだ作品を学んだ着目点で評価する。	・事実（絵の解説）と感想・意見（筆者の評価）の関係を押さえる。また、筆者の着目点（第 3 時は色・形・線等、第 4 時は動き・ポーズ・音等）を押さえる。 ・筆者の紹介文と学習前に書いた自分の紹介文を比べ、筆者の絵の見方のすばらしさを実感できるようにする。 【視点 1】ペアで互いの考えを確かめ合い評価する学び合いを通して、思考力等を高める。	読む能力①（ノート） 筆者の評価が、色、形、線、変化、音、ポーズ、表情等に着目して行われていることをまとめている。 読む能力②（発言・ノート） 筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているかをとらえている。
	6 ・ 7	○筆者が一番伝えたいことが表れている文章を探し、その表現技法や文章構成の工夫について考えを出し合う。 ○自分が選んだ作品で、一番伝えたいことをどう表現するかを考える。	・「鳥獣戯画」を「人類の宝なのだ」とまで評価する根拠（事実）を探し、筆者の思いに迫らせる。 ・漫画やアニメを例示した意図を考えさせる。 【視点 1】自分が選んだ作品の紹介文をグループで読み合い、改善点を指摘し合うことで、思考力や表現力を高める。 【視点 2】ノートに事実と感想・意見に関係付けてまとめさせ、思考過程を可視化し指導と評価の改善を図る。	書く能力①（ノート） 目的に応じて、事実と感想・意見を区別して書いている。
3	8	○学んだ表現技法や文章構成の工夫を生かし、第 2 次に行った文章を見直す。 ○自分が選んだ作品で書き出しの工夫の部分を書く。	・表現技法や文章構成を工夫していない場合を例示し、比較して考えることで、その効果を実感できるようにする。 【視点 2】書き出しや表現技法の工夫を生かした紹介文を書かせ、児童の理解度や進捗状況を確認する。	書く能力②（ノート） 書き出しや文末表現を工夫し、読み手を引きつけるような文章を書いている。
	9 ・ 10	○自分が選んだ作品のよさを伝える紹介文を書きまとめる。	・第 2 次において、授業のまとめで書いてきた作品を評価した文章を整理し作品のよさを紹介するために必要な情報を取捨選択させる。 ・文章全体を見直し、書き加えたい文章や表現の仕方がないか考える。 ・書いた紹介文を発表し合い、感想を交流する。 【視点 3】必要な情報を選んで、拡大提示装置を用いながら、自分が選んだ作品のよさを紹介させる。	関心・意欲・態度②（ノート） 自分が選んだ絵のよさを伝える紹介文を書こうとしている。

5 本時の学習

(1) 目標

根拠を示して考えを述べることのよさをとらえ、自分の紹介文に生かすことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。 (1) 前時の学習をふり返る。 (2) 本時のめあてをつかむ。	○前の時間に学習したことを隣の人と話そう。 ○高畑さんと自分の「鳥獣戯画」の紹介文を比べて、自分が選んだ絵の見方に生かせるようにしよう。	○前時を振り返り、筆者の着目点・説明・評価を確認することで、本時の学習の方向性をつかめるようにする。	学習前に書いた紹介文
高畑さんの紹介文のすばらしさを見付けて、それを自分の紹介文に生かそう。				
展開 12分	2 学習課題について話し合う。 (1) 共通点や相違点を見付ける。 (2) グループで交流する。	○高畑さんの紹介文と自分の紹介文とを比べて、共通点や相違点を見付けましょう。 ○見付けた共通点や相違点をもとに、高畑さんの紹介文のすばらしいところについてグループで話し合いましょう。	○根拠をもとに評価されていることに気付くことができるよう、着目点・説明・評価の三つの視点で比べさせる。 ○何が共通点・相違点なのか、筆者の紹介文のすばらしいと思ったところはどこかに絞って話し合う。 ○グループで交流する際、友達の意見を聞いたら、必ず自分と比べて発言させる。	ワークシート
5分	3 課題についての考えをまとめる。	○高畑さんの絵の見方について、参考にしたいところはどんなところですか。	○紹介文を書く際に、参考にしたい点をノートにまとめ、発表させて全体で共有させる。 ○根拠をはっきりと示した筆者の評価の仕方のよさを確認したうえで、自分が選んだ絵のよさを紹介する文章をシートに書かせる。	
20分	4 自分が選んだ絵のよさを紹介する文章を書く。 (1) 新たに学んだ着目点で絵のよさを紹介する文章を書く。	○高畑さんの紹介文を参考にしながら、自分が選んだ絵を評価してみましょう。		
【言語活動】 単元を貫く言語活動として設定した「美術評論家になって自分が選んだ作品のよさを紹介する」ことを通して、事実と感想・意見を関連付けて読み取るという指導事項を指導する。				
	(2) 友達と紹介文を読み合う。	○紹介文を友達と読み合い、友達の評価のよさやアドバイスを付箋に書いて渡しましょう。	○「筆者の紹介文で参考にしたいところ」を板書し整理する。 ○友達からのアドバイスを受け、必要に応じて修正・付け加えを朱書してよいことを知らせておく。	付箋
			読む能力②（発言・ノート） B基準 筆者がどのようなことを根拠として考えを述べているかをとらえている。 A基準 新たに学んだ着目点をもとに自分の紹介文に不足していたことをシートに書き加えている。 〈B基準に達しない児童への手立て〉 筆者と自分で同じ部分に着目しているところを確認する活動を児童と一緒にやる。	
まとめ 3分	5 本時の学習のまとめをする。	○本時の授業で学んだ着目点や、いいなと思った評価の言葉は、次時に使って、よりよい紹介文にしていきましょう。		